

「いにしえ」より「いま」につながる四つの道。

湖南歴史散歩

倉歴の道・観音の道・戦国の道・東海道

《ガイドブック》



みくも学区まちづくり協議会

どこか懐かしくて温かい街道情緒の残る街並み 「いにしえ」と「いま」をつなぐ時間旅行をお楽しみください。

北の十二坊と南の阿星山——二つの山の麓を縫うように流れる野洲川。その沃野の豊かな土地には古くから人々が住み、文化と歴史を育む道が生まれました。

やがて、その道は江戸と京を結ぶ東海道へと姿を変え、日本各地の物資と東西の文化を運ぶようになり、さらなる賑わいを見せました。時が流れ、人馬から鉄道、自動車へと移動手段が変わる中で、いつしかその道は忘れられそうになっていました。

道沿に残るかけがえのない歴史や文化財をたくさんの人に知っていただきたいという思いで、このハンドマップをつくりました。

「いにしえ」と「いま」をつなぐ時間旅行をどうぞお楽しみください。



旧東海道:

倉歴の道:

観音の道:

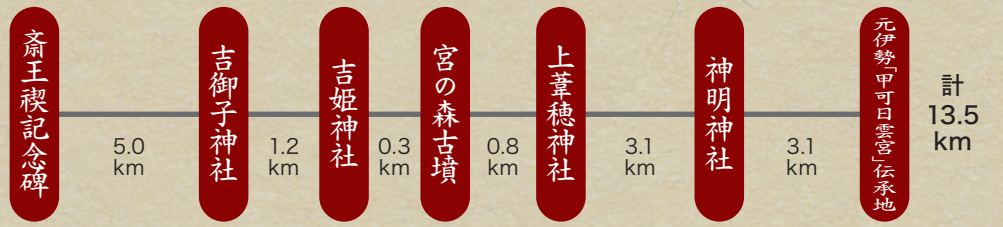
戦国の道:

東海道:

「ちょっと一服」:

くらふ 倉歴の道

はるか遠い昔、倭姫命が「天照大神」を伊勢へ遷座されるおり、この地の日雲の宮に数年にわたり鎮座されていました。歳月が流れ、天武天皇は歴代天皇の即位に際して、未婚の皇女または女王より選ばれた齋王を伊勢の齋王御所へ遣わせる齋王制度を制定しました。その伊勢へ向かう一行を齋王群行と呼び、群行に利用された道が「倉歴の道」です。齋王群行は、奈良時代に一旦途絶えますが、桓武天皇の御代に再興され、華やかにこの道を通過されました。文徳天皇の御代になると群行道は野洲川を渡り、対岸の野蔵神社を通る「阿須波の道」に代わることとなりました。



1 伊勢齋王禊祓所旧跡

トイレ：無
駐車場：有

天皇の代替わりに当たり、その天皇一代の間天皇の名代として伊勢神宮に仕える皇女が伊勢への道中に清らかな流れの清水「野洲川」で禊・祓の重要な儀式を行った場所。古代はこの場所まで川が流れていた。齋王制度は、桓武天皇以来、後醍醐天皇が制度を廃止されるまで約500年間続いた。



2 吉御子神社(よしみこじんじゃ)

トイレ：有
駐車場：有

奈良時代後期、崇徳天皇の頃に創祀された古社。茂った木々に囲まれた本殿は、慶応元年(1865)京都上賀茂神社から移築された江戸時代の建築物で、大正10年に国の重要文化財に指定されている。社宝の吉彦命坐像は藤原時代に作られたもので、厄除け・安産・交通安全守護神とされている。



3 吉姫神社(よしひめじんじゃ)

トイレ：有
駐車場：有

旧社寺は現在のお旅所(谷黒の御前)に「石部鹿塩上神社」があった。明応年間(1492~1501)の兵火により焼失。天文3年(1534)現在の地に祭祀された。江戸時代の社号は「上田大明神社」。明治元年に吉姫神社となった。吉御子神社とは女神・男神という対の関係にある。社蔵の木造狛犬は南北朝時代の作(約650年前)と伝わっている。



4 宮の森古墳(あけぼの公園)

トイレ：有
駐車場：有

石部宮の森、石部小学校南東に位置する吉姫公園にある5世紀ころの前方後円墳、構造は竪穴式粘土郭と推定されており、後円部の直径は55m、墳墓の高さは10mほどで大和政権時代の地方豪族の墳墓と考えられ、明治29年(1896)鉄製の刀が、昭和33年(1958)には家型埴輪がそれぞれ出土している。



5 上葦穂神社(かしほじんじゃ)

トイレ：無
駐車場：有

孝徳天皇の白雉元年2月、阿蘇嶽より五色の御旗が降り祀られたのが創祀と伝えられている。この御旗の降った地を御旗塚として、現在も聖地とされている。天智天皇9年(670)の社殿建立。境内に湖南市指定文化財の木造地蔵尊立像が安置されている。



6 神明神社(しんめいじんじゃ)

トイレ：無
駐車場：有

前方後円墳の二子山古墳の上に鎮座し、単に神明社とも言う。天照大神を奉斎した倭姫命が4年間滞在した、「日本書紀」に「近江国」、「倭姫命世記」「里可日雲宮」とある元伊勢の伝承地の一つ。土地の人々は神明さんと呼び、親しみをもっている。また言い伝えで、昔この神域で樹木を伐採すると、必ず腹痛を起こし苦しむことがあり、神罰として恐れられている。



7 元伊勢「甲可日雲宮」伝承地

トイレ：無
駐車場：有

新明宮は、円通山上乗寺の境内にある宮。現在、祭祀が続けられているかどうか不明。元伊勢伝承がある。上乘寺(臨済宗)は、古くは雲野山天号寺と称し、南禅寺仏燈国師の開山という。この地の三雲定持らが檀徒だったが、織田信長が三雲城を攻めた際の兵火で焼失した。その後、大蔵が山中興し観音寺上乘寺と改めた。享和年間(1801~4)火災に遭い全焼。

ちよっと一服



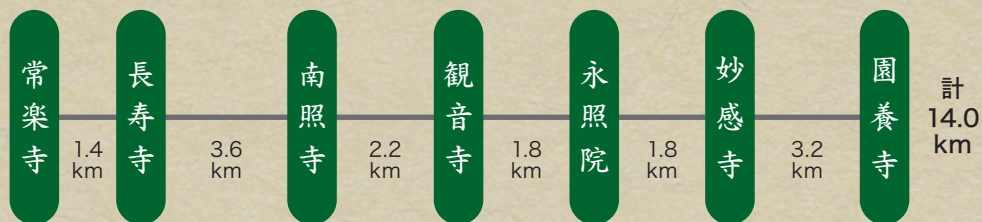
大きな「赤い暖簾」が目印。——北島酒造

創業200余年、近江の地酒を造り続ける北島酒造。鈴鹿山系の伏流水と近江産の酒米を使っつくる銘酒「御代栄(みよざかえ)」をぜひ、ご試飲ください。

- 湖南市針756 / TEL.0748-72-0012
- 定休日 4~9月:土・日・祝日休業 / 10~3月:日・祝日休業
- 酒蔵見学をご希望の方は、事前にご連絡ください。

観音の道

奈良時代の天平年中、聖武天皇は「紫香楽の宮」の鬼門封じと国家鎮護を願い、後に東大寺大仏（盧舎那仏）建立の功績により東大寺初代当となる良弁僧都に、帝の勅願により阿星山の麓に二つの寺院の建立を命じます。この二つ寺院が地元では西寺、東寺の名で親しまれる「常楽寺」と「長寿寺」です。平安時代に入ると一帯には「阿星山五千坊」と呼ばれるほどの天台宗の湖南仏教圏が形成され、鎌倉時代に至るまで「観音信仰」がこの地に広がりを見せます。街道沿いに点在する小さな寺院では、大切に守られてきた観音像がいまこの地の安寧を見守ってくださっています。



1 常楽寺

トイレ：有
駐車場：有

JR石部駅の南東3.2kmにある天台宗の寺院。奈良時代中期に良弁が開いた「阿星山五千坊」の中心であり、平安時代初期には長寿寺とともに歴代天皇の尊崇が厚かったという。国宝の本堂は南北朝時代に再建されたもので、中央には秘仏の木造千手観音坐像が安置され、寺宝である涅槃図や曼荼羅図など、国指定の古文化財が多くある。



2 長寿寺

トイレ：有
駐車場：有

阿星山(693.1m)の北東麓にあり、常楽寺の西寺に対して東寺と呼ばれる天台宗の古刹。奈良時代後期、聖武天皇の勅願として良弁が創建したと伝えられている。国宝の本堂内には、国宝の「春日厨子本尊」、秘仏「子安地藏尊」が安置されている。本堂へ続く参道には、聖武天皇を弔う鎌倉期の石造多宝塔(日本最大級)がある。湖南市屈指の紅葉名所の一つ。



3 南照寺(なんしょうじ)

トイレ：有
駐車場：有

延暦24年(805)宗祖伝教大師が美松山山麓に草堂を建立、これが南照寺の開基。仁寿3年(853)領主藤原頼平が山城の国より松尾明神を同所に勧請し南照寺はその神宮寺となった。本尊は秘仏「薬師如来」で33年に一回の御開扉。内陣には本尊を中心に十一面観音菩薩、十二神将、不動明王などを祀る。境内に松尾神社があり神仏習合の寺である。



4 観音寺

トイレ：有
駐車場：有

天台宗、山号は龍王山。第52代嵯峨天皇の勅願により興福寺の僧釋願安によって創建された。本尊は「十一面観音立像」。真新しい八角形の本堂内にもう一座の「十一面観音立像」が祀られており、どちらも平安期の作。かつては十数坊の寺院が伽藍とともにあったと伝わっている。



5 永照院

トイレ：有
駐車場：有

神亀元年(724)に創建された由緒ある寺院。織田信長の兵火や山津波により焼失、倒壊を繰り返したが、寛永5年に再建。その際、真言宗から浄土宗に改宗。寺宝の十一面観音立像は平安時代の作で、国の重要文化財に指定されている。「姿勢刀法等は県下最上の彫刻といわれ、その姿はまさに優美そのものでカヤの一本彫りで「くろ観音」とも呼ばれている。



6 妙感寺

トイレ：有
駐車場：有

雲照山妙感寺(臨済宗妙心寺派)は、南北朝時代、大本山妙心寺第二世微妙大師によって創建された。大師は建武中興の元勳萬里小路中納言藤原藤房卿その人であり、後世、新田義貞、楠木正成とともに建武の三忠臣と讃えられた人である。本尊は市指定文化財「十一面千手観音菩薩坐像」、秘仏に千手観世音菩薩があり観音信仰の聖地である。

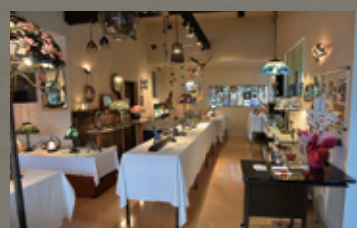


7 園養寺(おんようじ)

トイレ：有
駐車場：有

湖南市の東端に位置し、平安時代伝教大師最澄開基の天台宗寺院。江戸時代に境内から野洲川を渡る人が手に取るように見え、寺では川を渡る大名行列の装備や兵力を細かく記録し、幕府に報告するなど重要な役目を果たしており隠密寺と言われていた。本堂横に護摩壇が設けられ、天台密教1200年の法灯を紡ぐ由緒ある寺である。

ちょっと一服



「和」の街並で「洋」を楽しむ。——ギャラリー薔薇の木

滋賀県下屈指のステンドグラスアートギャラリー。ステンドグラス絵付けの古典技法を生かし、暮らしに光をもたらす数々の作品が展示されています。

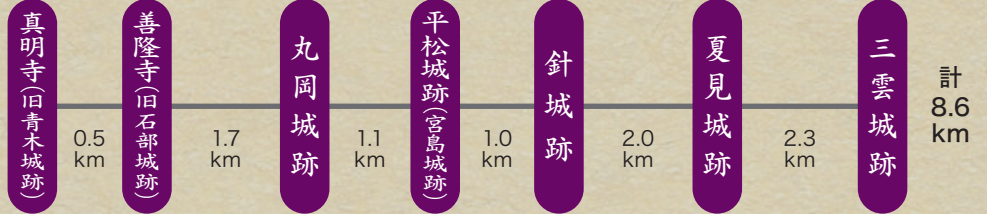
● 湖南市吉永473 / TEL.0748-72-5033

● 定休日 不定期

● 営業時間 12:00~17:00

戦国の道

応仁の乱以降、戦国の乱世となる中で、ここ湖南の里もその戦乱に巻き込まれていくようになります。村人たちは自らの身を守り、村を守るための自衛組織つくるようになり、やがて「甲賀武士団」と呼ばれる強力で広範な組織へと発展し、「甲賀は一つ」とまで言われるほど、甲賀地域に強い絆が生まれていきます。里の南に位置する阿星山の尾根先には「一村・一城」として、村を守る城が連なるように築されましたが、現在ではかすかに残されたその城跡に当時の様子が偲ばれるだけとなっています。



1 真明寺(旧青木城跡)

トイレ：有
駐車場：有

織田信長の家人であった紀伊一矩の子、初勘七郎の子供であった青木右衛門佐の屋敷跡。一矩は越前丸岡城主。石部は甲賀城最西端の重要な場所で防御の要としての城郭を配備したと考えられるが、当時を偲ぶものは残っていない。境内に松尾芭蕉の句碑「都つじいけてその蔭に干鱈さく女」があるが落剥し文字は読めない。



2 善隆寺(旧石部城跡)

トイレ：有
駐車場：有

旧東海道石部宿の中程、阿星山から続く丘陵の北端になる字東谷、戦国時代石部城があった通称「とのしろ」に位置する。本尊の阿弥陀如来は平安時代の作で湖南省指定文化財。石部山専嶽院と号する浄土宗の寺。元々は禅宗だったが、断絶していたのを石部家清が再興し浄土宗に改宗、父母の戒名から各々一字を取り「善隆寺」とした。



3 丸岡城跡

トイレ：無
駐車場：有

旧東海道の約200mの丘陵地にあって、東約100mには支城と考えられる東丸岡城跡がある。このあたりは甲賀特有の「小城」が連携しあって戦うといった考え方で築城されている。文治元年(1185)青木藤兵衛尉が幾多の戦功により、源頼朝よりこの地の地頭に任ぜられ建久年間(1190~1198)に築城したと伝えられる。



4 平松城跡(宮島城跡)

トイレ：無
駐車場：無

元号康正(こうしょう)から応仁年間(1455~1469)、甲賀五十三家のひとつ宮島掃部介による築城と伝わる。室町時代中期に平松の地に移り、応仁年間には大慈院領の下司を務めている。西照寺の西側にある藪内が城域とされ「里屋敷」の字名が残っている。



5 針城跡

トイレ：無
駐車場：有

甲賀五十三家のひとつ針和泉守の居城。県道4号線(旧国道1号線)針の交差点から山手に向かい、旧東海道を横切り飯道神社左手側のタキイ研究農場入口手前の道を左折、大留麻大明神(稲荷)の手前左手側の竹藪が城跡。タキイ社宅裏手の竹林の中に高さ3~4mの土塁が残るが、どこまでが城域かは不明。竹が密集し、竹藪自体は相当荒れている。



6 夏見城跡

トイレ：有
駐車場：有

甲賀五十三家のひとつ夏見氏代々の居館。長享元年(1489)夏見兵内は長享延徳の乱(釣の陣)に六角高頼方として従軍、その戦功により同地の領主となった。湖南省立三雲小学校の東側の旧東海道を見下ろす丘上に位置し、甲賀には珍しい複郭式の構造で、城域とされる竹林の中に土塁と堀跡が残存する。



7 三雲城跡

トイレ：有
駐車場：有

長享2年(1488)三雲典膳が佐々木六角高頼の命によって築いた典型的な山城。元亀元年(1570)織田信長の家臣、佐久間信盛との戦いで落城した。山腹には八丈岩と呼ばれている巨石があり、城跡の升形虎口、古井戸などの遺構が当時を偲わせる。八丈岩は「落ちそうで落ちず、倒れそうで倒れない」ことから今や合格祈願のパワースポットとして脚光を浴びている。

ちょっと一服

いしべ宿驛



旧東海道筋の石部本陣跡に建てられた街角サロン。
● 湖南省石部中央三丁目11-21
● 問合せ先 湖南省観光協会 TEL.0748-71-2157
● 定休日 月
● 営業時間 10:00~16:00

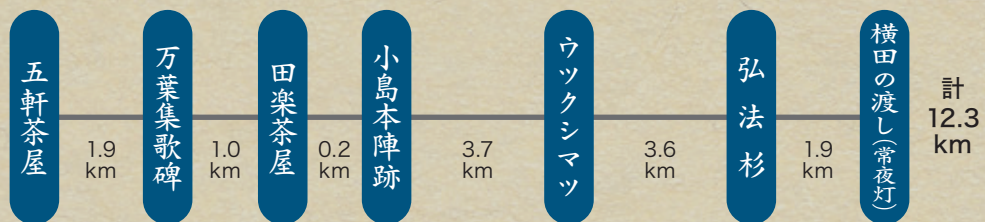
つどいの館ひだまり



元JA柑子袋支所を地元の区で借り受け、有志によりお休み処として活用。ドリンクをいただけます。
● 湖南省柑子袋785
● 営業日 火・金
● 営業時間 13:30~16:00

東海道

関ヶ原の合戦で勝利した徳川家康は五街道とその宿場の整理に着手、特に江戸と京都を結ぶ東海道は人々の往来も賑わいを見せるようになります。石部には「小島本陣」や「三大寺本陣」が置かれ、全盛期には216軒の商家や62軒の旅籠が軒を並べるなど、幕末まで宿として賑わいを見せていました。また、東海道に13ある「渡し」の一つとなる「横田の渡し」が野洲川に設けられ、川岸に位置する園養寺は往来する人々の監視役を幕府より拜命することになります。明治には、この地を流れる数本の天井川の下をくぐる珍しい隧道が掘られ、いまもその二つが貴重な姿を残しています。



1 五軒茶屋

■トイレ：無
■駐車場：無

栗東の伊勢落から江戸に向かう街道が、天和二年(1682)野洲川の氾濫で通れなくなり、迂回路として作られた道が半里ほど遠回りとなり、また山中を通らなければならなかったため、石部宿から五軒の茶屋を移転させ往来する旅人のお休み処とした。川の氾濫を危惧し、本街道(上道)と脇街道(下道)が残存している。



2 万葉集歌碑

■トイレ：有
■駐車場：無

石部の里の古さを象徴する万葉集の歌碑。昭和61年(1986)石部駅前にシンボルとして建てられた。「白真弓 石邊の山の常盤なる 命なれもや恋つゝ居らむ」萬葉集卷十一歌意は、「石部の山はいつ変わるともなくあるが限りある我が身であり 逢わずに恋しく思うだけで暮らせるものか・・・」



3 田楽茶屋

■トイレ：有
■駐車場：有

江戸日本橋から数えて五十一宿目、京都三条大橋から三宿目となる石部宿。京都を朝に経ち石部に夕方着くことから「京たち石部泊まり」言われた。江戸方鉤(かぎ)の手の角にある石部宿田楽茶屋。歌川広重の浮世絵、石部「目川ノ里」に描かれた茶屋を、平成14年(2002)に石部町政100周年記念事業として再現させた。



4 小島本陣跡

■トイレ：無
■駐車場：無

石部宿に二軒あった本陣の一つ。宿駅制度が廃止される明治三年まで約210年間使用された。宿帳には皇の女和宮、徳川家康、近藤勇、勝海舟の名も記され、明治天皇が明治元年(1868)上京時の行きと帰りに一泊ずつ、翌二年と十二年(1879)に二回休息されている。雨山歴史文化資料館に20分の1の模型で復元されている。



5 天然記念物「ウツクシマツ」

■トイレ：有
■駐車場：有

平松の南西部、旧東海道から1km弱、標高227m美松山の一局に自生するアカマツの変種で、山の南西斜面一帯に約200本の大小のマツが群生している。主幹がなく根から枝が放射状に出て傘を開いたような樹形である。日本ではここだけにしかなく、大正10年(1921)3月天然記念物に指定された。昭和56年(1981)10月昭和天皇の行幸を仰いだ。



6 弘法杉

■トイレ：有
■駐車場：有

旧東海道を横切る天井川の大沙川(おおすながわ)隧道の上に、樹高25m、周囲6m、樹齢750年の大杉がある。地元では「弘法杉」と呼んでいる。その昔、弘法大師がこの場所で食事をし、その箸を刺したところ成長して大杉になったとの言い伝えからこの名が付けられた。



7 横田の渡し(常夜灯)

■トイレ：無
■駐車場：無

三雲駅から約300m、旧東海道から天保義民碑へ向かう三差路、渡河地点の渡し場を「横田渡し」と呼び、東海道十三渡の一つに数えられた。軍事的理由から、江戸幕府はここに架橋を許さず、渡し場を江戸方にある泉村に渡し賃を徴収して維持管理することを命じ、川の水量に従い舟渡し、仮土橋を使い分けていた。三雲側の常夜灯は泉側よりも古く、現在より200m上流にあった。

ちょっと一服



旧街道沿いにお店、奥に酒蔵。——竹内酒造

140年続く老舗酒蔵、近江石部の語らずの酒「香の泉(かのいずみ)」は口当たりの良さと飲みやすさが評判です。旧東海道沿いに面した店舗の奥には、白壁と板張りの美しい工場が美しい続きます。旅の思い出や親しい方へのお土産にいかがでしょうか。

- 湖南市石部中央一丁目6-6 / TEL.0748-77-2001
- 定休日 土・日・祝日



みくも学区
まちづくり
協議会

編集・発行

三雲学区まちづくり協議会事務局

〒520-3233 湖南市 柑子袋 860 番地 1

柑子袋まちづくりセンター内

電話: 0748-71-2560

[協力・資料提供等: 草開勝彦氏]